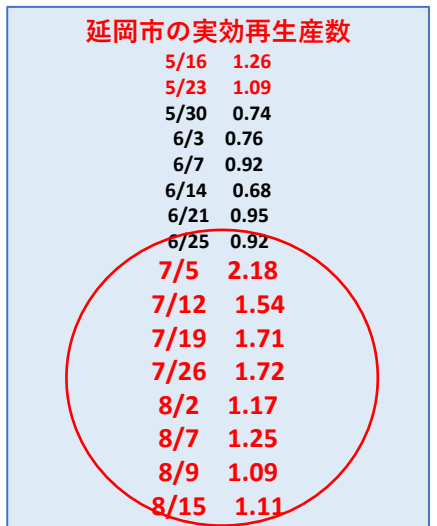
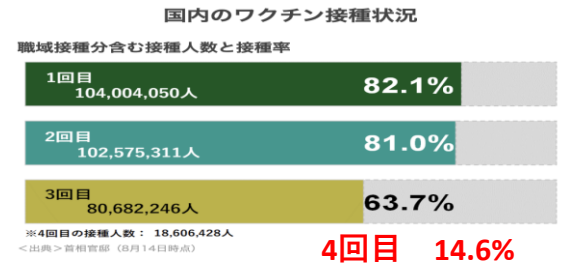


宮崎県DATA (8/15)
 医療機関入院中**209名(延25→51)**
 宿泊療養施設入所中**194名(延15)**
 自宅等療養者**18687→20933名**
 入院ベット専有率(宮崎県**62.7%**)
 (延**85%(実働121%)**) 高齢者施設重症多数

県延、共立、平田東、延リハでクラスター
 重症患者収容困難

7月中旬以降**BA.5**に置き換わりさらに増加し、8月のお盆休み前にピークその後再上昇し9月後半には減少する
 もしくはBA.2.75の影響で遷延化する可能性もあり
 第7波はBA.2.75に置き換わりながら進展する可能性がある

医師会病院受け入れ再開 (8/11~)



実効再生産数
 千葉、東京、神奈川、福岡など20が1未満

最大数 デルタ27人、BA.1: 70人、BA.2: 99人、BA.5: 458人

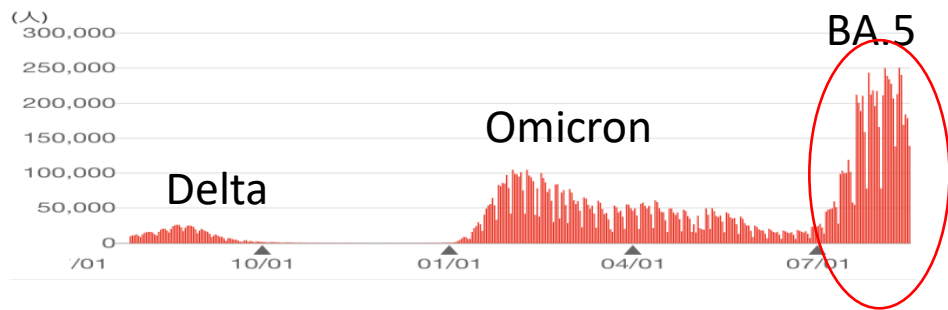
国内データー

新規陽性者数の推移（日別）

情報更新日：2022年08月15日

新規陽性者数 **138,577** 人
1週間平均 **196,052** 人
前週平均 **215,016** 人
前日比 **↓ 39,752** 人

グラフ表示期間 1週間 1か月 3か月 1年

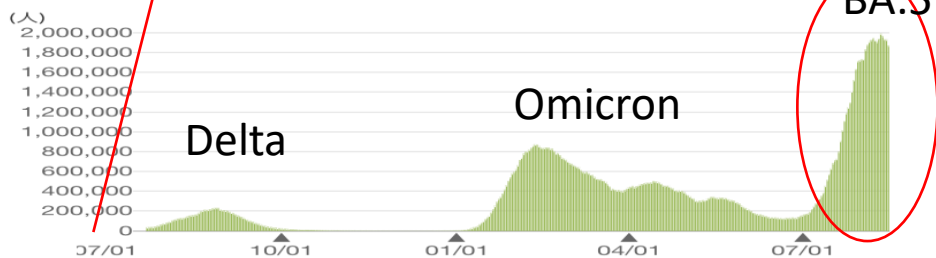


入院治療等を要する者等推移

情報更新日：2022年08月15日

入院治療等を要する者 **1,869,802** 人 **↓ 61,489** 人
退院又は療養解除者数 **13,766,978** 人 **↑ 226,386** 人
確認中 **111,539** 人 **↓ 11,065** 人

グラフ表示期間 1週間 1か月 3か月 1年



入院治療必要患者急増

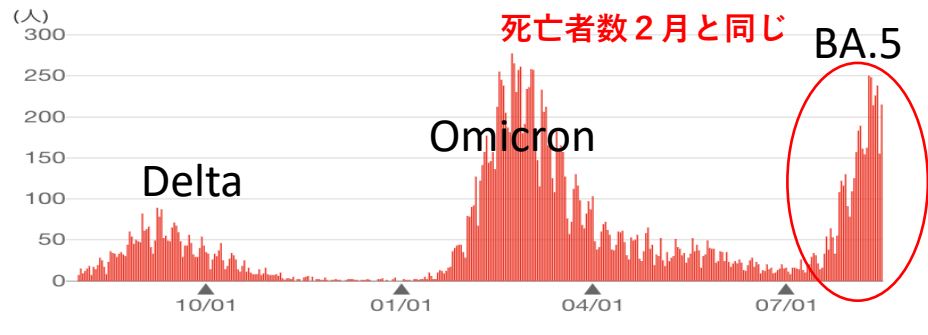
オミクロン株の方が死亡者多い

死亡者数の推移

情報更新日：2022年08月15日

死亡者数 **215** 人
前日比 **↑ 60** 人 **死亡者数急増
今後さらに増える！**

グラフ表示期間 1週間 1か月 3か月 1年

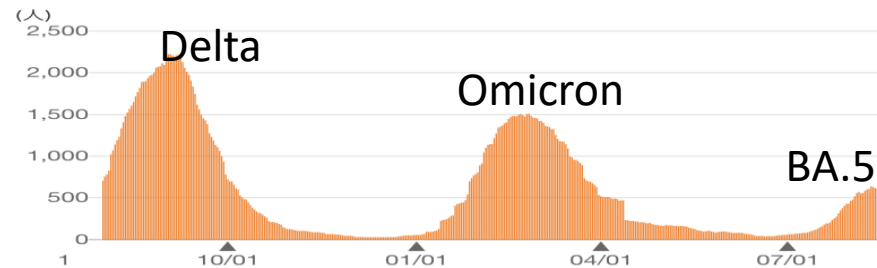


重症者数の推移

情報更新日：2022年08月15日

重症者数 **614** 人
前日比 **↑ 7** 人

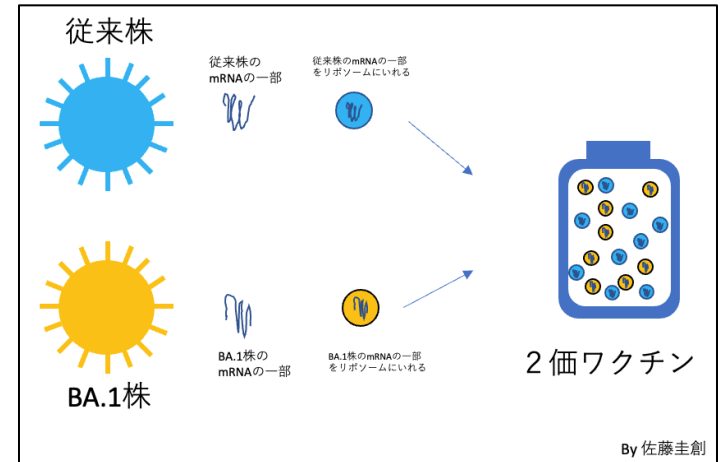
グラフ表示期間 1週間 1か月 3か月 1年



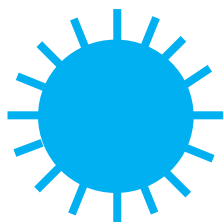
施設で亡くなった人は重症者にカウントされない

オミクロン株対応ワクチン (モデルナ(7/31) & ファイザー(8/8))

- 従来型（武漢）とBA.1の2価ワクチン
- メッセンジャーRNAワクチン
- スパイク蛋白をターゲット
- BA.1に対する抗体が大幅に上昇
(BA.1中和抗体値ファイザー：1.56～1.97倍、モデルナ1.75倍)
- 現在流行中のBA.4&5にも強力な中和抗体確認 (BA.1の1/3)
- 欧米では、今後オミクロン株対応ワクチンが主流になる
- BA.4&5対応ワクチンの開発も必要
- 厚労省の方針
- 高齢者の重症化を防ぐとともに、若い世代も含めた社会全体の免疫力を高める狙い
- 初回接種を完了した全ての者を対象とする (2回以上打った人全て)
- 9月中に輸入開始、10月半ば以降に実施
- 接種券発送準備 (3回目、4回目の接種券も使用可能)
- 予診票は変更なし



従来株



従来株の mRNAの一部



従来株の mRNAの一部
をリボソームに入れる

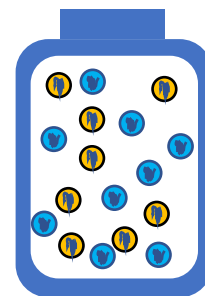


BA.1株

BA.1株の mRNAの一部



BA.1株の mRNAの一部
をリボソームに入れる



2価ワクチン

By 佐藤圭創

宮崎県 8/5発令

BA.5対策強化宣言について

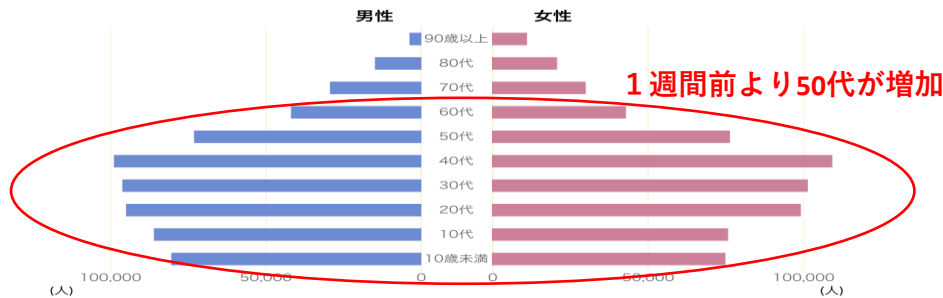
BA.5対策強化宣言の内容

対象地域	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県が独自に判断
住民への主な要請・呼びかけ	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な感染対策の徹底 ワクチン接種（3回目、4回目）の推進 高齢者などの混雑した場所への外出自粛 検査キットの配布事業の活用
事業者への主な要請・呼びかけ	<ul style="list-style-type: none"> テレワークの推進 高齢者施設や学校・保育所などの感染対策の強化 飲食店での適切な換気、座席間隔の確保 大人数での会食は参加者への事前検査を促す
罰則	<ul style="list-style-type: none"> なし

画像制作：Yahoo! JAPAN（政府の発表を元に作成）

性別・年代別新規陽性者数（週別）

情報更新日(週次)：2022年08月02日



1週間前より50代が増加

上記グラフに以下の人数は含まれない。
性別・年代不明・非公表等 11,816人

現在40歳以下が感染者の主流→高齢者に以降→死亡者数増加

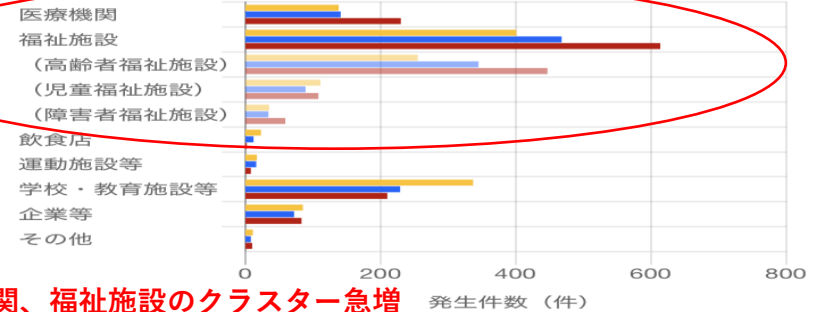


乳幼児の感染者増加→医療機関職員感染&濃厚増加→機能不全

集団感染等発生状況

情報更新日(週次)：2022年08月04日

1週間前 (1週間合計)	2週間前 (1週間合計)	3週間前 (1週間合計)
1157件	946件	1012件



医療機関、福祉施設のクラスター急増

■ 2022年07月11日~2022年07月17日
■ 2022年07月18日~2022年07月24日
■ 2022年07月25日~2022年07月31日

医療・福祉施設のクラスター増加



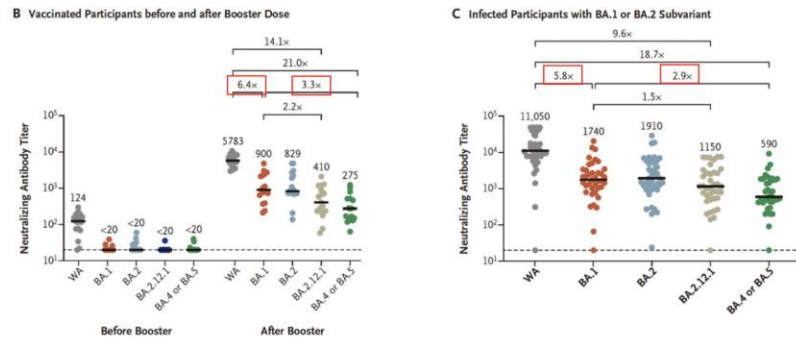
死亡者数増加

対策

数的医療崩壊
質的医療崩壊

行動制限
ワクチン接種
早期治療

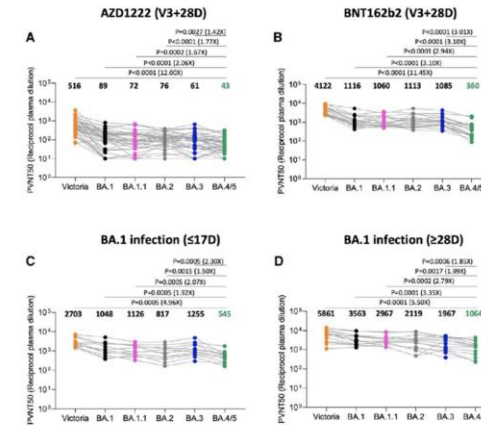
左; BNT162b2 mRNA 2 回接種半年後の血清、3 回接種 2 週間後の血清を用いた各シュドウイルスの中和活性を比較した結果
 右; BA.1/BA.2亜型での感染者血清 (1 例以外ブレイクスルー症例) を用いた中和試験データ



Hachmann et al., N Engl J Med. 2022 Jul 7;387(1):86-88.

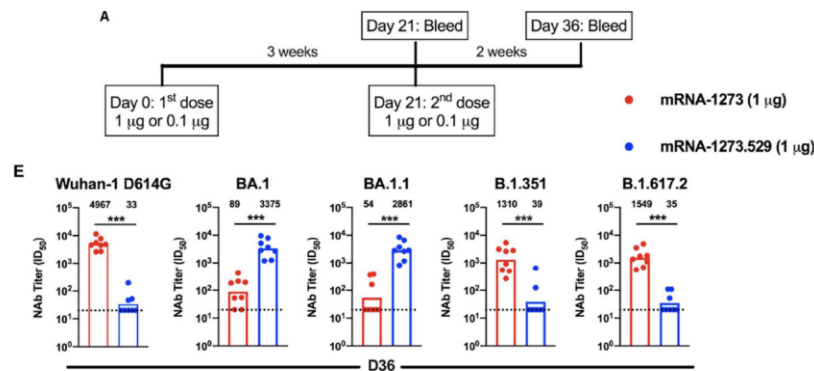
BNT162b: ファイザー

ワクチン接種者・ブレイクスルー感染者の血清を用いた各シュドウイルスの中和活性を比較した結果



Tuekprakhon et al., Cell. 2022 Jul 7;185(14):2422-2433.e13.

オミクロン対応mRNAワクチン (mRNA-1273.529) をマウスに2 回接種後に BA.1/BA.1.1を含む様々なウイルス株に対する中和抗体価を比較した。



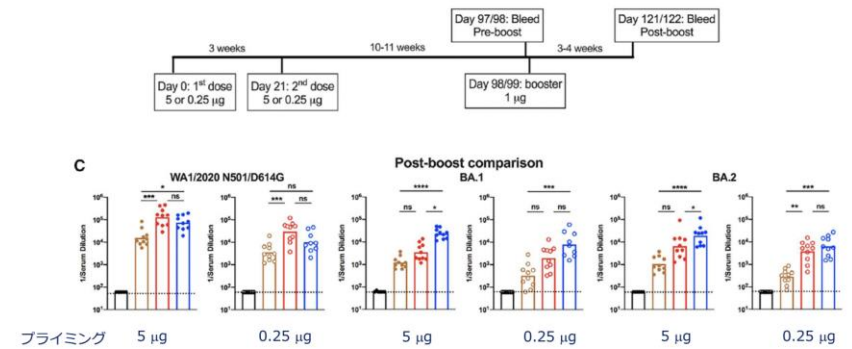
Ying et al., Cell. 2022 Apr 28;185(9):1572-1587.e11.

mRNA1273: モデルナ

B.1.351(ベータ株)

B.1.617.2(デルタ株)

mRNA-1273でプライミングしたマウスにmRNA-1273 (赤) もしくはmRNA-1273.529 (青) をブースター接種し、BA.1/BA.2/従来株に対する中和抗体のブースト効果を比較。茶はブースターなし



Ying et al., Cell. 2022 Apr 28;185(9):1572-1587.e11.

5～11歳の新型コロナウイルスワクチン接種の意義について

- 延岡市でも、子供の感染が増えてきて、酸素投与を必要とする中等症～重症の症例が増加傾向にある。
- 長期化する流行による行動制限が子供の身体的及び精神的成長を阻害する。
- 感染による、喘息などの呼吸器疾患、心疾患、腎疾患などの基礎疾患が悪化する症例が増加している。
- 子供でも感染後の後遺症として、**brain fog** (頭の中に霧があるような何も考えられなくなる状態)、全身倦怠感の持続、味覚・嗅覚障害の持続、免疫異常の惹起（ギランバレー症候群、川崎病、膠原病など）の報告が、増加傾向にある。
- 今後さらに、さまざまな変異株が流行する可能性が推定される。
- 臨床試験及び国内外の使用例で重篤な副反応の発現頻度は非常に低い。
- 副反応の頻度は成人よりも低く、特に心筋炎については重篤な心筋炎の発現は報告されていない。
- ワクチンの有効性は、成人と同等である。
- 現時点で治療に有効とされる、抗体薬や経口薬は12歳未満では使用できない。



以上より、新型コロナウイルスワクチンの接種は、意義があると考えられる

厚生労働省 小児コロナワクチン「努力義務」に…接種を後押ししたい考え

8/8(月) 19:13 配信 685

日テレNEWS



日テレNEWS

厚生労働省の専門家会議は5歳～11歳の子どもへの**新型コロナ**ワクチンの接種について、オミクロン株に対する有効性などの科学的知見が十分示されたとして、保護者の「**努力義務**」とすることを了承しました。

これまで、科学的知見を整理する必要があるとして見送られていましたが、「努力義務」とすることで接種を後押ししたい考えです。

接種は強制ではなく、最終的には、あくまでも、ご本人が納得した上で接種するか判断する。

努力義務とは

「**接種を受けるよう努めなければならない**」という予防接種法の規定のことで、義務とは異なります。感染症の緊急のまん延予防の観点から、皆様に接種にご協力をいただきたいという趣旨から、このような規定がある。(予防接種法第9条の規定)

予防接種法に基づいて行われる定期接種の多くのもの(4種混合、麻しん、風しんの予防接種など)にも、同じ規定が適用

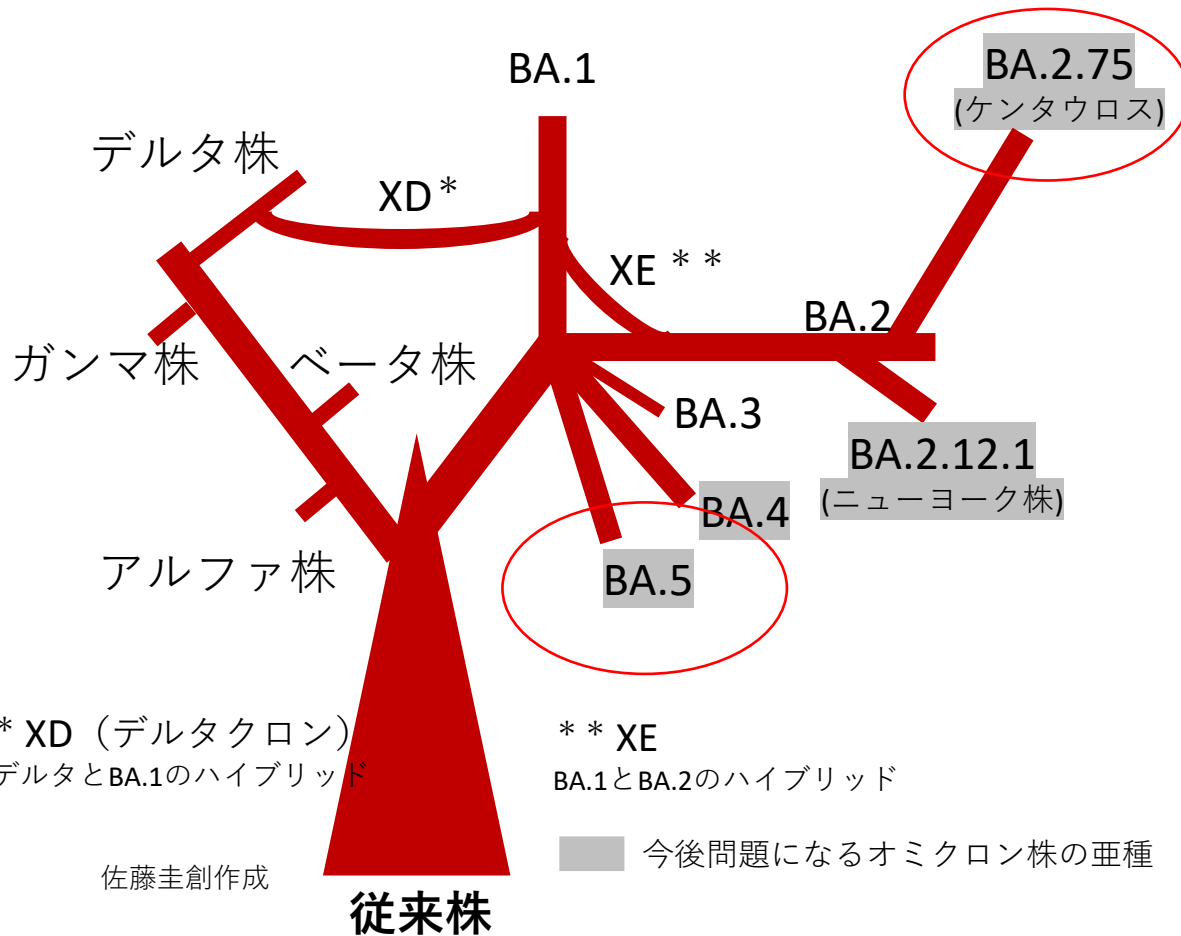
国内外の接種の臨床データにて

- 1) 安全性が担保された
- 2) 有効性が確認された
- 3) 小児の感染急増
- 4) 小児の後遺症が増えた
- 5) 将来にわたる免疫異常の可能性
- 6) 小児が感染拡大のスプレッダーになっている(症状が軽いのに、ウイルス量が多い)
- 7) 海外では、努力義務にして感染者が減少した



努力義務にして多くの子どもさんにワクチン接種を！

新型コロナウイルスの変異株及びオミクロン亜種



- オミクロン変異株は、オミクロン株出現以前のアルファ、ベータ、ガンマ、デルタ株とは、大きく系統が異なる。
- オミクロン亜種は、ハイブリットタイプ（XDやXEなど）とオミクロン株から別れて出来たもの（BA.1～5）とがある。
- 別れた枝が、離れていればそれだけ遺伝子情報や抗原となるタンパク質も異なる＝ワクチン効きにくい
- この中で、BA.4、BA.5、BA.2.12.1が今後、流行する恐れがある

オミクロン亜系統BA.4/5、BA.2.75の特徴			
	BA.2	BA.4/5	BA.2.75
感染力	○	◎	強い可能性
再感染性	○	◎	現在不明
免疫をすり抜ける力	○	◎	高い可能性
現行ワクチンでの中和抗体の効果	低い	BA.2の4倍程度低い	低い
ワクチンによる感染予防効果	低い	さらに低い	低い可能性
ワクチンによる重症化予防効果	維持	明らかな差はない	現在不明

オミクロン亜種	初発生地域	感染拡大地域	国内	感染力 (BA.2と比較)	ブースター接種*の必要性	変異1	変異2
BA.4	南アフリカ	南アフリカ、ポーランドなどのヨーロッパ	すでに市中感染確認	1.2倍	大	L452R変異あり	D3N変異なし
BA.5	南アフリカ	南アフリカ、ポーランドなどのヨーロッパ	すでに市中感染確認	1.2倍	大	L452R変異あり	D3N変異あり
BA.2.12.1	アメリカ	米国全体	すでに市中感染確認	1.23倍	大	L452Q変異あり	

BA.1,2と異なりL452の変異あれば、BA.4,5,2.12.1
 L452R変異あり、D3N変異なし→BA.4
 L452R変異あり、D3N変異あり→BA.5
 L452R変異ではなく→L452Qであれば→BA.2.12.1

* ブースター接種：3回目以降のワクチン接種

佐藤圭創作成

佐藤圭創作成